

令和 7 年度第 2 回図書館利用者懇談会記録

名称	令和 7 年度第 2 回図書館利用者懇談会
日時	令和 8 年 2 月 1 7 日（火）午前 1 0 時 1 5 分から 1 1 時 4 5 分まで
会場	中央町社会教育館 B 1 0 3 ・ B 1 0 4
出席者	1 3 人（内訳 利用者 3 人、図書館 1 0 人） 八雲中央図書館長、庶務係長、事業計画係長兼大橋図書館長兼緑が丘図書館長、企画調整担当係長兼目黒区民センター図書館長、資料係長兼守屋図書館長、サービス係長兼目黒本町図書館長兼洗足図書館長、貸出・予約係長兼中目黒駅前図書館長、事務局（庶務係）
懇談会次第	1 開会 2 目黒区立図書館の令和 6 年度及び令和 7 年度実績 3 目黒区立図書館の新サービスのご紹介 4 目黒区立図書館へのご要望・ご意見について 5 閉会
配付資料	1 新しいサービスと図書館へのご要望について 2 目黒区の教育（図書館掲載部分のみ抜粋） 3 アンケート

主要な発言

1 開会

（図書館出席者紹介と配布資料の確認）

参加者：本日は子ども読書活動に対する方針のパブリックコメントの結果についての議題はないのでしょうか。

図書館：パブリックコメントの結果と計画本体は 3 月下旬に同時に公表予定のため、それまでお待ちいただきたく、お願いいたします。

2 目黒区立図書館の令和 6 年度及び令和 7 年度実績

（配布資料 1 に基づき説明後、質疑応答）

参加者：図書館の利用者数や貸出数の報告データには増減の詳細データが出ているので、図書館の開催イベントも同様に参加者数を知りたいです。

図書館：イベントの参加者数に関しては、イベントの種類によるところもあり、単純に人数の増減では測りづらい場合があります。例えばクイズラリーのように 100 人以上参加できるような形式のものもあれば、職場体験などは大人数の参加ができないため、1 回 6 ～ 7 人の枠を 2 回実施するなどの形式になっているものもあります。様々なイベントで、募集人数よりも多く応募をいただいて抽選になるなど、かなり好評でした。

参加者：クイズラリーは 100 人規模ということは、それくらいは子どもたちが来たということですか。

図書館：1 人の子どもが何回も参加した場合、それぞれを 1 回と数えますので、クイズラリーに関しては累計で 100 人以上が参加したということです。

参加者：それは図書館の期待値、あるいはそれ以上に要望があったということですか。

図書館：お見込みのとおりです。何回か開催しておりますと、毎年の恒例イベントとして楽しみに参加してくださる子どもたちもいらっしゃいます。

参加者：わかりました。また、配布資料1の3ページ目下部に「(各館利用者数について) 毎年増加傾向にあるが、来館者を本に結び付けることが課題である。居場所としての図書館も重要。」とありますが、私は、本に結び付けるだけではなく、むしろ居場所として、本とは結び付かなくても、その場に行って雰囲気を楽しむ、あるいはお金もいらず冷暖房も整っていて安心していただける「いきどころ」として、これからの図書館は大きな役割を担っていると思っています。「課題である」と書いてありますが、必ずしも本に結び付かなくてもいいのではないかと思います。図書館によっては、コンサートを開いたり、絵画展を開いたり、本だけではなくその周辺に広がっているところもあると思いますが、その点についてはどのようにお考えですか。

図書館：おっしゃる通り、図書館は非常に多くの方が来館される場所であり、様々な方の居場所としての役割も大変重要だと思っています。図書館は一般的にとっても敷居が低い施設だと言われており、資格や団体への所属が必要なわけでもなく、いるだけであれば貸出登録も必要ない場所です。1日のリズムの中で自分なりに組み込んで、好きな時間に来て好きな時間に帰ることができる場所という意味では、家でも職場でもない第3の場所「サードプレイス」と呼ばれるような場所であると考えています。

ただ一方で、目黒区の場合は「区民に適切な情報を提供し、それを皆様が活用できる場所」といった性質も図書館の使命として考えておりますので、資料や椅子や机も揃え、職員も資料提供をお手伝いするために研鑽を積み重ねねばならないと考えております。どちらを重要視するというのではなく、両方を兼ね備えるために、居場所としても情報提供機関としての使命も果たすという方向性でやっていきたいと思っています。

参加者：資料には「本に結び付ける」と記載されています。今何度も「情報」とおっしゃっていましたが、「情報」というのは印刷された本だけではないですね。

図書館：「情報」は必ずしも印刷されたものばかりではありません。ただ、ひとつのテーマについてより深く知るためには、インターネットや新聞・雑誌よりも、印刷された本が非常に重要な役割を担っていると思います。ニーズによってどのような情報を提供するかは変わりますが、ひとつのテーマについてまとまった情報がほしいという場合は、やはり本に結び付けたいと図書館としては思います。世の中では以前からインターネットの情報で十分だという主張がありますが、有益な情報はインターネット上でも有料であることが多いです。何か深い情報が欲しいと思った時には、データベースへの登録やコンサルタントを介す必要が生じ、経費がかかります。その過程を経ない情報は、一般的には浅いものであることが多いです。そのように考えると、図書館は有料で売っている本を用意し、広く区民に情報提供するという使命を持っていますので、情報源としての本は今後とも図書館のメインになると思っています。「情報」が本だけではないというのは確かですが、だからと言って本をおろそかにすることもできないというのが、今の図書館の姿勢です。

参加者：今おっしゃっていたのは、旧来型の図書館としての役割だと思います。昨今進んでいる読書バリアフリーは、利用者側からの、自分たちにとって使いやすいものにアクセスしようという発信になりますので、立場が少し違います。例えば、印刷物が読めない、紙のペ

ージがめくれない方が、紙の本にとらわれることなく別の手段を選択できるのが読書バリアフリーの考え方だと思うので、今のお話は少し狭い気がします。様々な読書の手段を図書館から提供していただけると良いと思います。

図書館：本とともに、電子図書館の資料も充実させてまいります。

参加者：2020年頃は電子図書館の質がとても悪く、音声で聞くと読み間違いだらけでしたが、それは改善されたのでしょうか。例えば書籍では「目次（もくじ）」と書いてあるものが、「目」と「次」の間にスペースがあるため、音声だと「めつぎ」と読んでいたりします。学習するにつれて修正されていくものだと思いますが、校正されず機械的に音声化されたものが入っているのでしょうか。

図書館：電子図書館のベンダー側で自動音声のバージョンアップを行っていると思いますので、性能自体は徐々に上がってきていると思います。細かな精度の部分についてはベンダーに状況を確認し、改善がまだという場合はこちらから要望を挙げていきたいと思っています。

参加者：本を刻んでPDFにし、それに音声を付けただけというように感じるので、チェックしたほうが良いと思います。「床下の小人たち」という作品を「床下の子どもたち」と読んでいるものもあります。主人公は子どもではなく小人の本なのに、全然タイトルが違います。こんなに質の悪いものを、目黒区の図書館が電子図書として提供しているのは問題だと思います。

図書館：ベンダーと確認して把握していきます。

参加者：精度は上がっていると思うので、読み間違いのチェック方法は調べてください。

図書館：ありがとうございます。ご意見に関しては、図書館で確認いたします。

3 目黒区立図書館の新サービスのご紹介

（配布資料1に基づき説明後、質疑応答）

参加者：配布資料1の7ページ「読書記録」と9ページ「閲覧席予約システムの導入」については、このサービスが始まった際には開始のお知らせだけがウェブサイト等に掲載されていました。いずれのサービスも利用者懇談会で毎回要望が出ていましたが、毎回「できない」との回答でした。お知らせを掲載する時に、「以前から利用者懇談会等でも要望があり、来館者様からも要望がありましたので始めます」と掲載していただけると、利用者懇談会での意見が採用されるんだという認識になると思います。話し合いが何回もあって実現に至ったということは、情報として伝えていただきたいと思いました。そのような話し合いを通して理解し合っていくことは、図書館にとってとても大事なことだと思います。利用者懇談会について、また、懇談会での意見やそれに対する図書館の見解を図書館ウェブサイトに掲載してもらえればみんなで意見が出せるのに、利用者懇談会が終了したら終わりで、何も知らされないのはどうなのかなと思いました。もう少しみんなが一緒に考えられるような情報の流し方をしてほしいなと思います。一時期、利用者懇談会で出た意見と回答の記録が図書館ウェブサイトに掲載されていませんでした。今回の開催時も、前回の利用者懇談会での話題や要望、それについての回答を案内通知の封筒の中に入れていただければ、膨らませていかれたと思います。そういう部分について考えてみてほしいと思いました。

図書館：ご意見ありがとうございます。利用者懇談会の記録につきましては確かにここ数年

滞っていた時期があり、申し訳ございませんでした。現在は図書館ウェブサイトの利用者懇談会のページにて公開しておりますので、そちらをご確認いただければと思います。今後の周知方法につきましては、開催通知を出す時に、過去の利用者懇談会のページへ飛べる二次元バーコードを付けるなどの形で、過去の経緯がわかるように周知をしていきたいと思っています。情報の出し方につきましても、今回は区報やX・LINEに掲載いたしました。同様に該当ページへ誘導する形で進めていきたいと思っています。

4 目黒区立図書館へのご要望・ご意見について

参加者：普段利用している図書館は、守屋図書館と中目黒駅前図書館です。コピー機が非常に古く使いにくい。以前投書した意見への回答では、予算等の関係もあるためコピー機を替えることは難しいとありましたが、あれでは納得がいきません。図書館のコピー機は買い取りなのでしょうか。

図書館：買い取りではなくリースですので、こちらから機種を指定して入れているものでないという状況です。

参加者：リースであれば3年や5年契約のはずですが、こういう機能があるものに替えてほしいという要望は出せるはず。また、守屋図書館で雑誌の切り抜きがとて多いのは、図書館のコピー機が使いにくく、面倒くさいと思ってコピーを取らず持っていくからではないかと思っています。この雑誌は貸出券を持ってカウンターへどうぞというのが行く度に増えており、雑誌の閲覧というものを考えていただきたいと思うほどに切り抜きが多いです。必要なページはコピー機を利用してコピーをお取りくださいと書いておけばいいのではと思いますが、あのコピー機では苛立ってしまうだろうと思います。コンビニのコピー機ほど高機能なものでも良いですが、ぜひご検討いただきたいです。

図書館：図書館のコピー機は各種サイズや白黒・カラー、片面・両面、手差し等の基本的な印刷ができるようになっておりますが、確かに若干年数は経っておりますので、スピードが遅いなどの課題はあると認識しております。ただ、今日明日に変えられるものではないので、他の自治体等も調べながら進めさせていただきたいと思っています。

参加者：予算の関係もあるので、もちろんそうだと思います。ただ、少なくとも私が見た限り5年以上は使っているように感じますので、今のコピー機が何年使っているものなのかは知りたいと思っています。コンビニのコピー機とは雲泥の差があります。

参加者：今回の利用者懇談会は、作ってくださった資料のデータを基に話せるので、とても良いと思います。ただ、配布資料の中にも「目黒区の教育」の抜粋資料の中にも、図書館の資料費と職員数の記載がありませんが、何故記載しないのでしょうか。図書館にとって、資料費と職員というのは非常に大事なところなので、これらを抜かして書くのはどうなのかなと思いました。また、私は目黒区の資料、特に区政に対する資料は、他では手に入らないからとても大事だと思っています。今はなるべく紙媒体では置かないという形になっていますが、図書館はそれでいいのでしょうか。以前は区役所の中に区政情報コーナーがあり、区の発行物が見られましたが、今はなくなってしまいました。あそこには大事な資料がたくさんあったので、それらをどうするのかという意見を何回か以前の利用者懇談会でも出しましたが、図書館ではまだ考えていないというようなことをおっしゃっていました。あれらの資料

を入れるには相当の職員数や予算が必要ですので、資料費や職員数などの情報が載っていないと、どう考えていいのかがわかりません。図書館は資料を読んで、そこから自ら考え、学んでいくものだと思います。そういう意味で、資料費や職員数などの情報をきちっと出して、考えられるようなものを作ってくださいということが私の要望です。

また、先ほど図書館は居場所なのか、本と結び付けることが重要なのかという議論がありましたが、私は、居場所が駄目という意味ではなく、本と結び付けるというのは大変重要なことだと思います。それはレファレンスという形で可能になっていくと思います。私は八雲中央図書館、目黒本町図書館、守屋図書館の3館を中心に使っていますが、目黒本町図書館では、特に区の情報に関するレファレンスができず大変です。八雲中央図書館にはちゃんとした人がいるからと言われるのですが、委託とは何のためにやっているのでしょうか。人やお金を減らすためだけですか。そういうところもきちんとしてほしいです。

図書館：ありがとうございました。資料費のこと、職員数、レファレンスの重要性というご意見を伺わせていただきました。最初に資料費から説明いたします。

図書館：資料費の予算は議会などの予算報告で上げております。総額でおよそ9,000万円というのはここ2～3年変わっておりません。図書・雑誌・新聞・データベースなど全て含めた、大きな意味での資料費です。電子図書館は目黒区の実施計画内「電子図書館資料の充実」にて予算額を公表しており、毎年度10点ずつ貴重な地域資料等をデジタル化しておりますので、そちらを含めておよそ400万円という形で公表しております。また、図書館単独の実績についての資料ですが、現在は「目黒区の教育」に、図書館を含めた教育委員会全体としての実施事業とその実績を上げる形になっておりますので、予算額は上げておりません。図書館だけではなく、他の所管も同様ですので、図書館だけが単独で予算額の公表をするということとは行っておりません。

参加者：予算額だけでなく、決算額でもいいですよ。

図書館：決算額も同様ですが、資料費は基本的にほぼ満額近く使っております。

参加者：掲載するページ数の都合もあるかと思いますが、図書館にとって資料費がどの程度か、資料の内訳はどのようになっているかというのは、大切なことだと思いますし、利用者も知りたいと思います。だからそれがわかるようにしてほしいのですが、記載しないというのは区の方針でしょうか。先ほど述べたように、利用者が図書館について考える上での大切な情報です。図書館ウェブサイトを見ても載っていないような気がします。

図書館：利用者懇談会でも以前からお話があったので、図書館ウェブサイトでは統計的な数字を出すようにしているところです。図書館ウェブサイト内に「目黒区立図書館について」というページがあります。お金のことについては確かに掲載していませんが、そちらには各館の資料数や利用者数など、館別のデータを載せています。おっしゃる通り、統計データというものは公表して見ていただくということが本来の意義ですので、詳しく出していきたいとは思いますが、予算等については難しいところもあるかと思います。「日本の図書館」というデータ集がありまして、そちらの中には資料費と図書費という形で載っています。目黒区は八雲中央図書館で全区立図書館の本を買っていますので、資料費については館別という概念はありません。そこは他区の図書館とは違うところではあります。データによって掲載場所がバラバラになってしまっているのが、図書館ウェブサイトでの掲載方法については今後

考えていきたいと思います。

参加者：それはやる人がいないという職員数の問題でしょうか。それとも、お金のことを載せてはいけないということがあるのでしょうか。

図書館：載せてはいけないということはないと思いますが、課ごとの詳細な予算を公表することは現在他課でもあまり見ません。

参加者：「日本の図書館」は私も知っていますが、やはり目黒のことは目黒で見たいと思います。資料費を公表することに何か問題があるのでしょうか。

図書館：対外的な詳細な公表資料を作っておりません。目黒区の他部署の状況を調査する必要がありますので、公表の仕方については宿題にさせていただければと思います。

参加者：以前教育委員会で「目黒区の教育」を担当している方にこちらの資料をいただいた時に、資料費の記載がなくとてもわかりにくい、以前は記載があったと伝えたところ、教育委員会の担当者としては載せてはいけない内容について特に指示しておらず、図書館に任せているというお答えでした。

参加者：目黒区の8館の図書館の資料購入については八雲中央図書館がコントロールしているということでしたが、守屋図書館は狭いわりに雑誌がとても豊富です。毎年予算を計上する時に、購入している雑誌の精査はしないのでしょうか。

図書館：各館の雑誌の種類や貸出回数も確認した上で毎年度精査しております。八雲中央図書館ができるまでは守屋図書館が中央館だったという経緯があるため、その名残で雑誌が他の館より多かったのですが、特定の館に雑誌が固まりすぎないように、あるいは同じジャンルの雑誌がひとつの図書館に集まってしまわないようにバランスをとるなど工夫をしています。新しい雑誌の購入については職員で検討し、図書館で購入するに値するか、利用者の方々に見ていただける内容か等、毎年度かなり詳しく精査しております。

参加者：例えば、ある新聞では毎週土曜日に読書ページがあり、そこで読みたいなと思った本があって図書館に申し込むと、目黒区は多少時間がかかったとしても100パーセント買ってくれます。私は他の市の人とも交流する機会がありますが、図書に関して目黒はお金持ちねといつも言われます。新聞は図書館に行って読めばいいと友だちに言うと、行くのに20分かかるからと言われます。東京に次ぐ都市でもひとつの区にひとつ程しか図書館がないという点でも、目黒区の図書館は優れていると思っています。ただ、旅行のガイドブックのようにデータが日進月歩で変わっていくような雑誌でも、2018年のものなどが置いてあります。いわゆる情報誌は、どんなに長くても5年以上古いものはデータとして通用しなくなり、利用価値があまりないと思います。その辺りもご検討いただければと思います。

図書館：図書館は通常5年を目途に、利用者の方が閲覧できる棚から本を取り除き、保存庫に入れるか除籍をするか精査する「除架」という作業を行います。ガイドブックに限らず、基本的にはデータが古く利用者の方に見ていただくのがあまり適切でない本についてはできるだけ除架をして、除籍したほうがいいものについては除籍を進めています。ただ、希少なため古いもので構わないから置いてほしいという要望があって配架が続いていることもあります。今後も除架・除籍を進めてまいります。

図書館：お時間の都合がありますので、職員数や居場所の問題、レファレンスの件など、本日回答できていない分に関しましては、後日図書館ウェブサイトで回答させていただきます。

す。

参加者：目黒区の図書館は本の種類も豊富で、他の図書館にはなくても目黒にはあるというのが私も自慢です。その点はとても良いと思っていますが、貸出数や利用者数だけではなく、資料費の前年度からの増減や職員数などの数値の報告も出してくださるといいと思います。

そして、私はやはり多文化サービスをお願いしたいと思います。今は図書館での多言語での読み聞かせがなくなっています。私が2006年に始めた時には、図書館の方に多文化サービスはこれからの課題だからやりましょうと言われて、すぐにスタートができました。外国人が増加していますから、すべての外国人の言語の本を揃えることは無理ですが、図書館は子どもたちがいろいろな国の人・文化と知り合う居場所であり、情報とも結び付けられる場所だと思います。先日、地域にお住まいの外国の方が、子どもたちに「外国人だ逃げろ！」と言われて逃げられたそうです。大使館の方たちも、「人権教育が必要です」と言ってきています。人権教育というものは、学校や図書館で生身の人と接することで得られる情報だと思います。今、おはなし会は全て日本語になっていますが、年に何回か多言語での読み聞かせを行って、外国人が直接子どもたちにその言語で話してくれるという体験の場を作ってほしいと思っています。外国人がゲストとして私たちと共に活動するという読み聞かせの会をまた復活してほしいと思っています。やはり現場の人たちが必要なことだと思ってくださらないとできないことかなと思います。今度、めぐろ国際交流フェスティバルがありますが、そちらで実施される読み聞かせも多分日本語ばかりかなと思っています。せっかくの国際フェスティバルで外国人と日本人がともに作るという活動にならないことを非常に残念に感じているので、もう少し目黒区の国際化、多文化サービスが進んでほしいと思っています。

図書館：ありがとうございます。多言語サービスや読み聞かせなど、様々なイベントの企画は、読み聞かせの担当部署であるサービス係長と相談していただければと思います。

参加者：読み聞かせのグループが数多くできてきている中で、多言語サービスをする隙間もなかなかないかとは思いますが、やはり図書館には住民同士を結びつけるという役割があると思っていますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会（八雲中央図書館長挨拶）

図書館：ありがとうございました。本日回答しきれなかった部分につきましては、本日記載いただいたアンケートへの回答とともに、後日図書館ウェブサイトに掲載させていただきます。

図書館長：本日はお忙しい中ありがとうございました。皆様からのご意見を伺い、図書館として耳の痛い話もございましたが、利用者の方からの生の声という形で取り組みをご評価いただいている部分についても伺えましたので、私どもにとっても非常に貴重な機会になったと捉えております。本日お答えしきれなかった部分につきましては、本日の記録・アンケートへのお答えも併せて、追って公開できるようにしていきます。今後とも図書館のご利用につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以 上